

コンニャク越冬栽培法

古川農業試験場

1 取り上げた理由

コンニャク栽培では収穫・運搬・植付作業に多大な労力を要する。そこで、これらの労力を軽減するために、生子を植付後その年の収穫を行わずほ場で越冬させ、翌年の秋に収穫する越冬栽培法について検討したところ、慣行栽培と比較して省力となり、同等以上の収量を得ることができたので普及技術とする。

2 普及技術

- 1) 種いもは生子を用い、畦幅85cm，株間10cm，2条千鳥の栽植密度で慣行栽培と同時期に植え付け，植付の深さが約15cmになるように覆土する。
- 2) 肥料は肥効調節型肥料（商品名：ロング424M270日タイプ）を用い，窒素成分量で慣行栽培の2倍量を施用する。
- 3) 越冬前に過湿防止と雑草抑制のため，畦面を黒マルチフィルムで5月下旬まで被覆する。
- 4) 慣行栽培と比較し，2年間で作業時間を約50%程度軽減することができる。

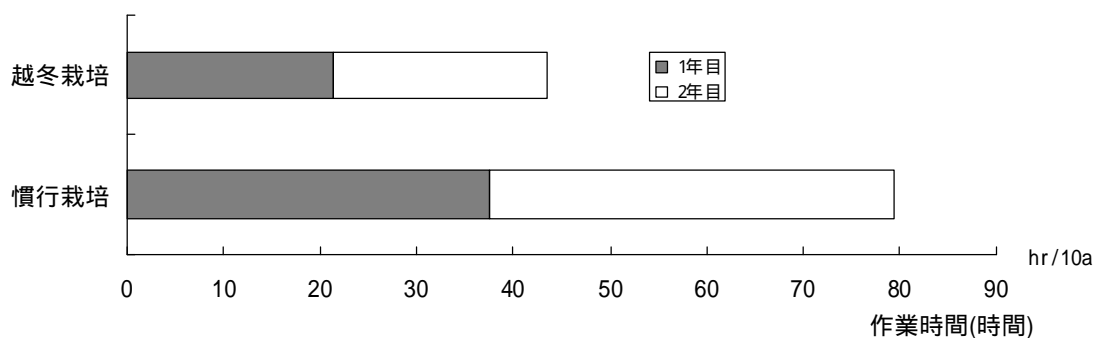
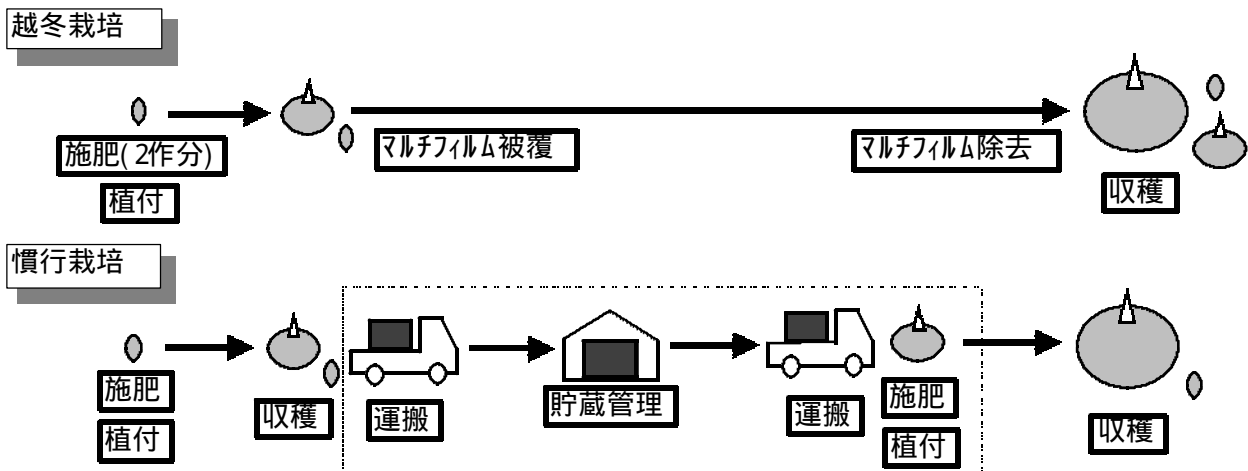


図1 越冬栽培と慣行栽培との作業時間比較
注)コンニャク作付面積1haのうち25aに生子作付を想定

3 利活用の留意点

- 1) 「はるなくる」，「あかぎおおだま」の両品種に適應できる。
- 2) 生子は病害のないものを使用し，植付時にはトップジンM粉剤で粉衣消毒する。
- 3) 前年に病害の発生がみられたほ場には植付を行わない。また，植付を行うほ場は必ず土壤消毒を実施する。
- 4) 越冬中は風でマルチフィルムが飛散しないように，裾をしっかりと押さえる。
- 5) 生育期間中の栽培管理は慣行栽培と同様に行う。
- 6) 越冬栽培で得られた生子は，慣行栽培で得られた生子と同様に栽培可能である。

（問い合わせ先：古川農業試験場水田利用部 電話0229-26-5106）

4 背景となった主要な試験研究

1) 研究課題名及び研究期間

中山間地域の特性を活かした畑特作物高生産性栽培技術体系の確立(平成9~12年度)

2) 参考データ

表1 植付深と出芽及び収量との関係
(平9~10年平均 はるなくろ)

栽培法及び 植付深	出芽率 (%)	球茎重 (kg/a)	同左比 (%)
越冬10cm	79	132.7	91
越冬15cm	82	142.1	97
慣行10cm(対照)	91	146.4	(100)

表2 被覆除去時期と出芽・収量及び雑草発生量との関係
(平9~10年平均 はるなくろ)

被覆除去 時期	出芽率 (%)	球茎重 (kg/a)	球茎 1個重 (g)	雑草発生量	
				乾重 (g/m ²)	同左比 (%)
5月上旬	86	126.1	62.3	32.0	41
5月下旬	82	124.8	64.7	5.5	7
無被覆	63	92.7	62.5	78.0	(100)

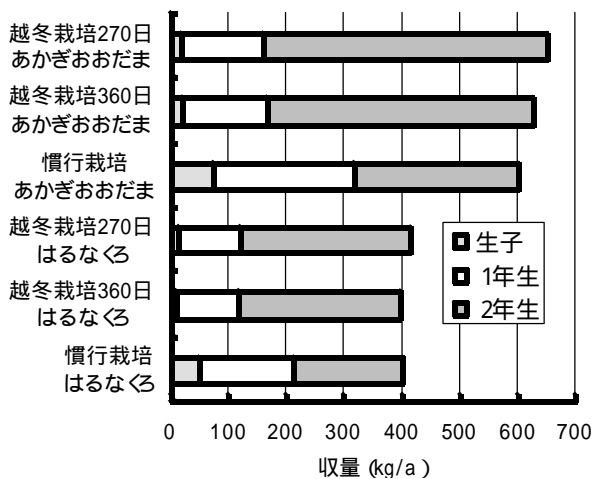


図2 収量比較(平11~12)

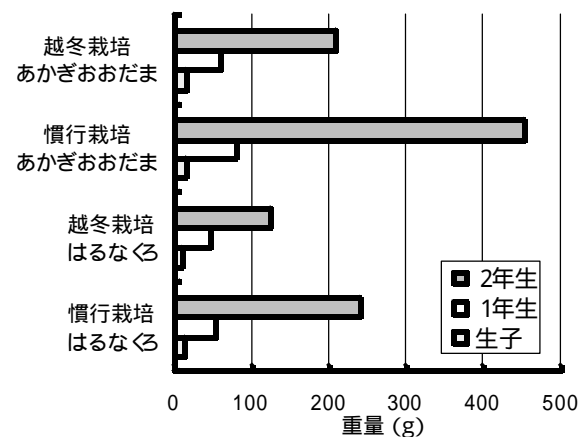


図3 収穫球茎1個重比較(平11~12)

表3 川崎町における越冬栽培の収量(平11~12 植付深15cm)

品種名	越冬後 出芽率 (%)	球茎重			球茎1個重	
		2年生 (kg/a)	1年生 (kg/a)	合計 (kg/a)	2年生 (kg/a)	1年生 (kg/a)
はるなくろ	90	250.7	98.9	349.6	106.7	42.1
あかぎおおだま	88	470.7	139.8	610.5	200.3	59.5

表4 越冬栽培の経済効果(1haのうち25aで越冬栽培実施時)

肥料・資材費増加分 ¹⁾	作業時間短縮分 ²⁾	収量増加分 ³⁾	計
90,650円	34,110円	90,341円	33,801円(+ -)

注1) ロング424M270日タイプ(10kg単価2,130円), 黒マルチフィルム(幅135cm, 200m巻単価1,970円) 慣行肥料(20kg単価1,680円)として試算

2) 越冬栽培作業時間: 41.5時間, 慣行栽培作業時間: 79.4時間, 1時間当たり労賃: 900円で試算

3) 過年度成績よりはるなくろにおける越冬栽培での平均増収割合を5%とし, 1kg当たり販売価格を181円として試算

3) 発表論文等

なし